書き抜き読書ノート 2425	2021 年 7 月 12 日

木原武一著「大人のための偉人伝」新潮選書、新潮社 1989 年 7 月 20 日刊を読む

天才の学び方(12) ガンジー

・この世界にこれだけ多くの人間がいまも生きているという事実こそ、世界が武力にではなく「真理」すなわち「『愛の力』にもとづいていることを示すものです。ですから、この力の勝利の最大にして、もっとも申し分のない証拠は、世界に戦争が繰り返されたにもかかわらず、世界がいまなお存続しているという事実のうちに見出されます。」

・実際、「インド独立の父」ガンジーほど、多くの人びとから共感と支持を得た人間もめずらしい。1948 年 1 月独立したばかりのインドでくりひろげられていたヒンドゥ教徒とイスラム教徒との対立抗争に心を痛めたガンジーは、79 歳という高齢にもかかわらず、死を覚悟の断食を行った。断食をはじめて 6 日間、ヒンドゥ教徒とイスラム教徒をはじめ、あらゆる派の人々がガンジーの前にひれ伏して和解を誓い合い、断食の中止を要請した。

・「一人の人間に可能なことは、万人に可能である」

・「私は過てる人を見ると、自分も過ちを犯してきたことを考える」

・過ちを犯したことのない人間はいないはずである。肝心なのはその過ちにどう対応するかである。

・「人は自分の過りは凸レンズをつけて見、他人のそれは凹レンズをつけて見よ」

・ガンジーははじめてだれかに会ったとき、相手をまず信用する人間だった。このような特性こそ、マハトマ・ガンジーをつくりあげた原動力にほかならなかった。

・ガンジーははじめて南アフリカに渡り、切符を買い一等車に乗ったところ、途中のマリッツバーグという駅で駅員から荷物車に移るように言われ抗議したら、巡査がやってきて荷物と一緒に駅に放り出されてしまった。

・この駅での事件について、ガンジーは「生涯におけるもっとも創造的な経験」と言っている。人間の心に新しい未知のはたらきを喚起したから、この経験は創造的となった。「生涯で最も創造的」と呼んだのは怒りをどのようにコントロールするかということに思いがけない大きな意味を発見したためだ。

・怒りのコントロールといっても怒りを鎮めることではない。それは「怒りをどのように効果的に表明するか」ということにほかならない。鉄道会社の総支配人にあてた長文の電報を打ったのもひとつの方法である。

・「怒りから迷妄が生まれ、迷妄から判断力の混乱がおこる。判断力の混乱によって理性の喪失があり、理性の喪失によって人は滅びる」

・怒りを効果的に表明する方法を心得ていさえすれば、怒りから迷妄が生まれることを防ぐことができる。

・ガンジーの生涯は、たびかさなる差別や虐待、圧政にいろどられているが、彼が一貫して考え、そして、行動してきたことの根本にあったものは、「怒りのコントロール」ということにほかならない。
・ガンジーは、怒りに対する創造的な対応の方法を「サティヤーグラハ」つまり「真理の堅持」と呼ぶ。「真理を押し通せば、必ずこの世から悪はなくなり、すべての人々の心は「真理」に到達する。
・そのためにガンジーがすすめたのが「非暴力」という方法。彼は悪に対して抵抗すること自体は決して否定しない。
・「人類は非暴力によってのみ暴力から脱出しなければならない。憎悪は愛によってのみ克服される。憎悪に対するのに、憎しみをもってすることはただ憎悪を深める」
・人間の生涯とは、思いがけない経験から触発された感激や怒りをどのように処理するかという試練にほかならない。怒りの経験は人間にとって好機なのである。
・「試行錯誤の経験主義者、ガンジーが『アイデンティティ』を確立し、マハトマへの道を歩みはじめたのは、まさに、怒りのコントロールを通してであった」
・武器を持たず、逮捕や発砲を覚悟の上で、黙々と抗議行進の先頭に立つガンジーの怒りは大いに人々の心を打つものがあった。

・「サティヤーグラハ」とは要するにすべての人の中にあるはずの真理や正義、愛を求める傾向を喚起させることにほかならない。
・「サティヤ(真理)」とは、本来存在するものという意味。真理は虚空に存在しているわけではない。それは人間の心の中に存在している。そのような真理にたいしてすべての人の目を開かせること」これがガンジーの考え。
・「真理すなわち愛の力」を人びとの心に喚起し、同時に、山のように積ってやまない怒りをコントロールするために、ガンジーが最後の非常手段として行ったのが断食である。
・「断食は自己浄化であって、これに共感する人びとを自己浄化することが目的だ」
・ガンジーから一貫して伝わってくるのは「人間への完璧なまでの信頼感」。「自由への第 1 条件は、恐怖から自らを開放すること」。恐怖は不振の産物、相手を完全に信頼することができれば、恐れることは何もないはずだ。
・ガンジーは「敵への善行」を人々にすすめる。これも敵を信頼してこそ可能である。「一人に可能なことは万人に可能である」
・ガンジーは、機械化に反対して、インドの伝統的な手紡ぎ車を奨励し、自分の着るものは自分でつくるよう提唱した。「外国製の機械がインドに入ってくるまでわれわれはどうしていたか。まさにそれと同じことを今日もやればよい」
・「文明の本義は需要を増やすことではなく、慎重かつ果敢に欲望を削減することにある」
＊このガンジーの考えは、時代錯誤にして人間錯誤かもしれないが、現代においては時代錯誤・人間錯誤を通してしか世界の平和や心の平和は得られない。